

## 近隣の自然の変化に目を向ける No. 45

### 「近隣に咲くレアな（珍しい）花々 Rare flowers in neighborhood」

2021年4月21日

百花繚乱のことばに相応しい4月も半ばを過ぎたが、今年は特に3月の気温が高かったせいか百をはるかに超える花々が咲いている。そこで今回は、4月に見たレアな花を採り上げたい。レアと言っても、馴染みの花もあるかと思うので、クイズ形式にしてみた。

- ①ニオイローバイ(匂い蠟梅)：1月に咲く薄黄色のロウバイとは色も香りも全く異なる。しかし、赤ワイン色の整った姿の花が目を引き。
- ②ハンカチノキ：枝にぶら下がった様子が正にハンカチ。触ると柔らかな布のようだ。
- ③カラタネオガタマ(唐種招霊)：唐=中国原産。花はバナナの香りがする。英語名はバナナの木(Banana shrub)。
- ④ハクウンボク(白雲木)：青空に浮かぶ白雲に見立てた名。エゴの木の仲間。
- ⑤リキュウバイ(利休梅)：清楚な花は茶花としても愛されて来た。千利休の命日に咲くという逸話がある。
- ⑥アメリカザイフリボク(アメリカ采振木)：6月に赤い実(ジューン ベリー)を付け、アメリカではジャムとして人気。花が采配に似ている。今では近隣でも多く見られる。
- ⑦オオヤマレンゲ(大山蓮華)：奈良県の大峰山に自生する。ハスの花(蓮華)に似た白い花は一度見ると忘れられない。シーボルトが注目し、欧州に移植した。
- ⑧フッキソウ(富貴草)：耐寒性・耐暑性を兼ね備え、年中緑の葉を生やし続けるので、富の象徴とされた。花言葉は、良き門出。
- ⑨オオアマナ(大甘菜)：6弁の白い輪郭が美しく、群生する。別名、ベツレヘムの星。
- ⑩シラユキゲシ(白雪芥子)：別名、スノー ポピー。か弱に見えるが、暑さ、寒さに強く、繁殖する。
- ⑪ハッカクレン(八角蓮)：蓮の葉に似た八角形の葉の下に赤褐色の花を咲かせる。漢方で解熱剤として利用される。
- ⑫キバナカタクリ(黄花片栗)：別名、西洋カタクリ。日本原産のピンク色のカタクリよりも遅れて咲き、葉も花も大柄。形はユリに似ている。
- ⑬セリバヒエンソウ(芹葉飛燕草) *Delphinium anthriscifolium*: セリのような葉、ツバメが飛び交う姿からついた名。印刷版のアルバム中の名は誤り。お詫びして訂正致します。
- ⑭ヒトリシズカ(一人静)：ブラシ状の小さな白い花が特徴。かつては吉野静と呼ばれた、と言う。なお、後咲きの二人静は、細いブラシが2本伸びている。
- ⑮ヒメウツギ(姫卯木)：きれいな白い花を穂のように咲かせ、丈夫で長持ちする。庭木として栽培されて来た。
- ⑯ジュウニヒトエ(十二単)：花が重なって咲く姿が女官の十二単から付けられた名。しかし、派手さはない。